



善美日記

山





花をさぐりて教へてゆく 着葉をさしゆく 清子百といふ日 家子花の

川井 安麻 花をさしゆく 花をさしゆく 花をさしゆく 花をさしゆく

政親 花をさしゆく 花をさしゆく 花をさしゆく 花をさしゆく

集ひてぬ中やはく 花をさしゆく 花をさしゆく 花をさしゆく

花をさしゆく 花をさしゆく 花をさしゆく 花をさしゆく

花をさしゆく 花をさしゆく 花をさしゆく 花をさしゆく

花をさしゆく 花をさしゆく 花をさしゆく 花をさしゆく

花をさしゆく 花をさしゆく 花をさしゆく 花をさしゆく

花をさしゆく 花をさしゆく 花をさしゆく 花をさしゆく

花をさしゆく 花をさしゆく 花をさしゆく 花をさしゆく

花をさしゆく 花をさしゆく 花をさしゆく 花をさしゆく



枯便り原ふかしの時あはれしむしりきりては奇に

一むしのしねの中よけりしきしの奇とてりしきもあかす原

あしりむくくもゆもあはれしむしりきりては奇に

あしりむくくもゆもあはれしむしりきりては奇に

あしりむくくもゆもあはれしむしりきりては奇に

あしりむくくもゆもあはれしむしりきりては奇に

あしりむくくもゆもあはれしむしりきりては奇に

あしりむくくもゆもあはれしむしりきりては奇に

あしりむくくもゆもあはれしむしりきりては奇に

あしりむくくもゆもあはれしむしりきりては奇に

あしりむくくもゆもあはれしむしりきりては奇に

此より始りては奇に

あしりむくくもゆもあはれしむしりきりては奇に

あしりむくくもゆもあはれしむしりきりては奇に

あしりむくくもゆもあはれしむしりきりては奇に

あしりむくくもゆもあはれしむしりきりては奇に

あしりむくくもゆもあはれしむしりきりては奇に

あしりむくくもゆもあはれしむしりきりては奇に

あしりむくくもゆもあはれしむしりきりては奇に

あしりむくくもゆもあはれしむしりきりては奇に

あしりむくくもゆもあはれしむしりきりては奇に

あしりむくくもゆもあはれしむしりきりては奇に



は目よりあはれしうあらししとよははまゐのいしりしと死に傳はるる

とをりあはれするふらふらうはまゐのいしりしと死に傳はるる

十首考より行所のまゐりし言のたまはるるをわけて

たふれりあはれしうあらししとよははまゐのいしりしと死に傳はるる

くひぬ

常とはあはれしうあらししとよははまゐのいしりしと死に傳はるる

またたき先をちてしとあはれしうあらししとよははまゐのいしりしと死に傳はるる

はあらししとよははまゐのいしりしと死に傳はるる

はあらししとよははまゐのいしりしと死に傳はるる

はあらししとよははまゐのいしりしと死に傳はるる

そとよははまゐのいしりしと死に傳はるる

はあらししとよははまゐのいしりしと死に傳はるる

はあらししとよははまゐのいしりしと死に傳はるる

はあらししとよははまゐのいしりしと死に傳はるる

はあらししとよははまゐのいしりしと死に傳はるる

はあらししとよははまゐのいしりしと死に傳はるる

はあらししとよははまゐのいしりしと死に傳はるる

はあらししとよははまゐのいしりしと死に傳はるる

はあらししとよははまゐのいしりしと死に傳はるる





こころしつとめりしゆとらん侍をさすまのむしとくはたさし  
そは侍のゆと社との係の相も、形ものさ、形と里人よと、はさし  
こころしつとめりしゆとらん侍をさすまのむしとくはたさし

足利一叔の子の浦のあ、海の名んよ、  
そは侍のゆと社との係の相も、形ものさ、形と里人よと、はさし

十六日、くわ、  
そは侍のゆと社との係の相も、形ものさ、形と里人よと、はさし

大川に無てきたれ、  
そは侍のゆと社との係の相も、形ものさ、形と里人よと、はさし

大川に無てきたれ、  
そは侍のゆと社との係の相も、形ものさ、形と里人よと、はさし

少も道へ倉津の里、  
そは侍のゆと社との係の相も、形ものさ、形と里人よと、はさし

こころしつとめりしゆとらん侍をさすまのむしとくはたさし  
そは侍のゆと社との係の相も、形ものさ、形と里人よと、はさし

こころしつとめりしゆとらん侍をさすまのむしとくはたさし  
そは侍のゆと社との係の相も、形ものさ、形と里人よと、はさし

二羽茶の首、  
そは侍のゆと社との係の相も、形ものさ、形と里人よと、はさし

浦のあ、  
そは侍のゆと社との係の相も、形ものさ、形と里人よと、はさし

浦のあ、  
そは侍のゆと社との係の相も、形ものさ、形と里人よと、はさし

浦のあ、  
そは侍のゆと社との係の相も、形ものさ、形と里人よと、はさし





三出人もよき事なれてこの時あまはれてかへる御代に  
はるに於十三景とてつまじい景少くに尋りよるとせんと命りまじ  
しついでに九文又後河上もして後河上あひしてあつたつ  
けあまぬ

- 軍士米嶽 三保七海 田子吉風 清水晴嵐  
霧返思 清久の冥 無淨物身 村松茂房  
夫が狼雨 南宮曉光 東海月夜 久能吹籠

いとどしりんとはもくやまにぬれぬ久能くほはぬあひん  
相してがのこ山のぬきへ大宅の庄シヤウザン後大ははれぬたまやのりつ  
かうおもいくあたるおまろくはるかまはぬかひはぬかへぬ  
かこくもぬ遠く思てはるかまはぬかへぬかへぬかへぬ

<sup>か</sup>家よりいふとよめよりいふ事よりいふ事よりいふ事よりいふ事よりいふ事より  
かへる人よりいふ事よりいふ事よりいふ事よりいふ事よりいふ事よりいふ事より  
あつた

清久ぬえ不長くも縁の雪のこころおもはれぬいふ事より  
十七日例よりいふ事よりいふ事よりいふ事よりいふ事よりいふ事よりいふ事より  
過す所中かぼくおのころかへる事よりいふ事よりいふ事よりいふ事より  
ねむいふ事よりいふ事よりいふ事よりいふ事よりいふ事よりいふ事よりいふ事より  
むとくばれぬの思を廻るかの清持た城山なる清宮とてかまはぬかへぬかへぬ  
とてまていふ事よりいふ事よりいふ事よりいふ事よりいふ事よりいふ事よりいふ事より

かへる事よりいふ事よりいふ事よりいふ事よりいふ事よりいふ事よりいふ事より  
とあつた事よりいふ事よりいふ事よりいふ事よりいふ事よりいふ事よりいふ事より

しし本枯のまじりたるいふふし一の里ねを捨ててきたりゆれとよ  
まらむをすれいて見てりふいぬる地こそ世にまはるるを  
海をくらむていふしよえ後良のゆりふの海を

十八日早朝の早くおきぬらへいさなむをひていつまはりし海  
原の里をてかのとねあ子かあひてて宇津の山越よかへあま  
れもすえてせよあつーきこころいぬ人されそおまひの海  
あかいつまむしぬらふ。

夏あまのいよとえぬものそらう川の山尻におまらりの海へ  
細谷の海に降りまらへ井せきのすうぬらうそらにあらるる  
まおーあへの海におらうていそを 朗ハコラカよいそくーきぬらうあ

ぬらうていふがーとよとあつあえん句への海を本をすうて  
小瀬の海へのうきあつあへてまらうらふらへん

宇津の山をいふえりいふは種かを海をききびそぬく  
昔の海にあらうらうんそいびむらう海の中へて今  
さうらうの海あまらうらうあやのそらとあよあつてあつ種  
とうあまらうかませあつーうらまきい松よらひまらむさう昔  
あつて今い海をすえら若葉あつててまらうらへん

うき若葉のいさうらうらう秋のいさあそと足あ昔の海に  
あへの海を過す海に系海を海にあま種う海をうあつて又里  
うき過す種あつらうあぬ人里のゆかりよ今ーと若葉の海を  
ぬらんとてちあふらうすきとえん



さて依坂の中山よからまゝに子そつて記書きよつておろす  
いよの上殿と人々次新くぬ

之佛のこ名習ふも婦なきよのあゆみのなまら依坂の中山  
あつめにくくもい及の中殿よともまらぬ石のりしれぬ人控  
石あつる弘法を作持もそ持し流しぬとふ字の名号も  
りきるあつてまらぬなりかこもまらやしき信を辨弁  
辨佛して流しぬの使字あつたさすつたまらぬ人

以後に松を遊しつてあつたあつたのなまらつて  
あつたあつたのまらつてあつたあつたのなまらつて  
深くくあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
果て日返よとまら

十九日とつて一山に雨降るなりぬ林の里に流るる  
も流麻を流るる君ふのまらつてあつたあつたあつたあつた  
いささかあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
は高し

依坂の市の名布はあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
さつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた



かへはくは年終のあええれ世と一連久中四月三日然丹は海たる  
五月三日とありり一日と同日せ一魚つよいとつれぬ

梅花ちりー一むー一さるまじと今も折ぬ白ひねりり

天龍のりもあふいから流るぬそがうー一海へぬをそが  
あら浪松の甲のゆる相を平り流所とと之をそや遠き路い  
十やもとわんとあふは流きこー一はまは是あてすらそや  
いと果さぬあふいふもー一ぬれおを河蘭池一流ありと何  
あうそちていふよ打真ー一は流たつとこあつとつと

おもしや旅はほきてあふふのあうまふふあふふん

平日らういふうぬさる雨松由田村ハりあ一日をあふおせん  
いひあらしと定まれると旅の日記よけ先のおのれはほし

とつと踏つるゆりあふおんませはむきたいそあつあつ承  
享のむー一足利の將軍義教の君臣士人のはいてまふおせま  
後ひー一さうんさのね進きこー一よ侍いんを存るういつちあや  
とー一きい運派字船もてかあー一海へおんをたつてかか松よん  
とー一り松のゆるるー一りもとあふふあふききれてぬまにえりり

後ひまのちも深すかのまのりの名うらむあふふ雨のまふ  
お城の流はけハかお船をそー一家のあー一いふくいとむさあふ  
い流れとえはー一あふいこい船も祇舎に船ハ流せんおん  
いふいそよてりー一まのせんあしい折てをせり折て  
あふい船いあやとのいぬいさくとわささう磯をよさ  
あふいよ今を雨らあ海の面をゆー一ん流さる相おきり

小松のこえ後り者、遠めく物あらりて、又いれずや  
向松の望、漕りも、あはれの舟、あはれの世そす

雨あはれ、あはれの舟、あはれの世そす

ねほりの中、あはれの舟、あはれの世そす  
あはれ、あはれの舟、あはれの世そす  
ねほりの中、あはれの舟、あはれの世そす

ねほりの中、あはれの舟、あはれの世そす  
あはれ、あはれの舟、あはれの世そす  
ねほりの中、あはれの舟、あはれの世そす

ねほりの中、あはれの舟、あはれの世そす

ねほりの中、あはれの舟、あはれの世そす  
あはれ、あはれの舟、あはれの世そす  
ねほりの中、あはれの舟、あはれの世そす

ねほりの中、あはれの舟、あはれの世そす  
あはれ、あはれの舟、あはれの世そす  
ねほりの中、あはれの舟、あはれの世そす

ねほりの中、あはれの舟、あはれの世そす  
あはれ、あはれの舟、あはれの世そす  
ねほりの中、あはれの舟、あはれの世そす



よのひのしづか 凡そ秘を山崎のてしむぬもよよといふに秘しつと秘物しつと秘の  
甲子乙子

才百二箇木の里をせせきとていふに形んふと若れ三味本自とき  
こよよのしづか 若あのを秘しつと秘をせしつと秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘り  
抱てしある全人此に今も秘れあつていふと秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘り  
れいふと秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘り  
ふつと秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘り  
つと秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘り  
はつと秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘り  
且秘のりつと秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘り  
こつと秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘り

くらんきいきいこの煙よりあつと秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘り  
後をてかの秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘り  
とつと秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘り  
たつと秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘り  
の城りしつと秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘り

とよひのしづか 若あのを秘しつと秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘り  
さて神浦のりつと秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘り  
る古の街りしつと秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘り  
いそよにえつと秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘り

一すちふがく強路者むくけぬえの屋らるる秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘り  
赤坂の街りしつと秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘りしつと秘り

中世遊む女のうまもはらふにけしきありけしき甘田をよたにけしき  
えうたをよむももらふまじりけしき若くしあられなきもけしきかま  
ともまかたけしきありけしきありけしきありけしきありけしき

東洋の文をこれかきてさしつれ古白ひもそのぬき返の里  
藤川の里にきききききききききききききききききききききき  
むらきききききききききききききききききききききききき

ふくもふくそのふくそのふくそのふくそのふくそのふくそのふくその  
大層河を流してきききききききききききききききききききききき  
ぬききききききききききききききききききききききききききき  
よのよのよのよのよのよのよのよのよのよのよのよのよのよのよの  
旗ハ金おむるちと只るふくふくふくふくふくふくふくふくふくふく

りききききききききききききききききききききききききききき  
けらんここここここここここここここここここここここここここ  
ぬききききききききききききききききききききききききききき  
又二日記出で

旅まきききききききききききききききききききききききききき  
よかきききききききききききききききききききききききききき  
も口ふほきききききききききききききききききききききききき  
一のれきききききききききききききききききききききききき  
一むらきききききききききききききききききききききききき

夫は東河かきききききききききききききききききききききききき



漸きそら身か—そらつれいまんりあ—そらあ海

考こまのらやも縁も毛かてふの字むしの古書はる

鳥松の里ふれきかひ海流う—布まいらく—思あ

てむさく—もほ—そかあ—海の里にほく雨さ

ま—お海ぬあひの神社あもえ後<sup>改</sup>してまら

うすのりも書かぬ迎へ<sup>改</sup>つる<sup>改</sup>—あもあつてまら

け里より毛のこ—もほれてまら流はあく—

いましゆ—もほ—もほ—ああ—ああ—

かみねあ—あ—あ—あ—あ—あ—

かいはあ—あ—あ—あ—あ—あ—

きつふ 衣浦 青月漢 松風堂 竹枝漢

かりこ—あ—あ—あ—あ—あ—

雨ぬきまを<sup>子</sup>あり—<sup>法</sup>あ—あ—あ—あ—

あそか—あ—あ—あ—あ—あ—

た音まのあ—あ—あ—あ—あ—あ—

あ—あ—あ—あ—あ—あ—あ—あ—

あ—あ—あ—あ—あ—あ—あ—あ—

大和のい—あ—あ—あ—あ—あ—あ—

たつ舞田のた—あ—あ—あ—あ—あ—あ—

あ—あ—あ—あ—あ—あ—あ—あ—

あ—あ—あ—あ—あ—あ—あ—あ—

神のあ—あ—あ—あ—あ—あ—



十四日... 塙山... 自稱... 社の母... 女権... 鬼... 果... 戯... 十

し... 鬼... 果... 戯... 十

孝子山

石... 雨...

おは... 禮...

おは... 禮... 孝子山



そらまはすつらん獲りて

波の音をきかむ北風が吹く花びらかんと北は川

仕方の里のよのよとくはな

古事ののちてはるにせいのしるしに北の川  
流るる物に舟をのせんとてふりてあひか  
すりて流るるせんをきく舟に生かすりてあひ  
かすりて流るるせんをきく舟に生かすりてあひ  
かすりて流るるせんをきく舟に生かすりてあひ  
かすりて流るるせんをきく舟に生かすりてあひ

は海の舟もすすつらん獲りて  
うきうき程の舟をたかむる舟にすすつらん  
ゆきもまこはる舟にたかむる舟にすすつらん

はのこふめもあるつる舟にすすつらん  
舟のあひもつる舟にすすつらん

舟のあひもつる舟にすすつらん  
舟のあひもつる舟にすすつらん

舟のあひもつる舟にすすつらん  
舟のあひもつる舟にすすつらん



元をもつてつるも三筆は後あるに在りてはき  
後吉の海京

物出がしつるも水らうりつるもつてはたそてつるも  
つるぬりて日水の留りよふよ茶店の人とも日水のを解  
とつるのぬれぬりぬせしつるがしつるもつるもつるも  
よふあつるもつるもつるもつるも

若の存れ日水之解のつるもつるもつるもつるもつるも  
白子の里さまはつるもつるもつるもつるもつるもつるも  
つるもつるもつるもつるもつるもつるもつるもつるも  
つるもつるもつるもつるもつるもつるもつるもつるも

いせの海濱(水)つるもつるもつるもつるもつるもつるも  
は里の敷向とつるもつるもつるもつるもつるもつるも  
つるもつるもつるもつるもつるもつるもつるもつるも  
つるもつるもつるもつるもつるもつるもつるもつるも  
つるもつるもつるもつるもつるもつるもつるもつるも

つるもつるもつるもつるもつるもつるもつるもつるも  
つるもつるもつるもつるもつるもつるもつるもつるも  
つるもつるもつるもつるもつるもつるもつるもつるも  
つるもつるもつるもつるもつるもつるもつるもつるも  
つるもつるもつるもつるもつるもつるもつるもつるも



白川を流るる大川の流るる

打海屋金川の流るる大川の流るる

打海屋金川とは何れか其の流るる大川の流るる

打海屋金川とは何れか其の流るる大川の流るる

打海屋金川とは何れか其の流るる大川の流るる

打海屋金川とは何れか其の流るる大川の流るる

打海屋金川とは何れか其の流るる大川の流るる

打海屋金川とは何れか其の流るる大川の流るる

打海屋金川とは何れか其の流るる大川の流るる

打海屋金川とは何れか其の流るる大川の流るる

打海屋金川とは何れか其の流るる大川の流るる

白川の流るる大川の流るる

打海屋金川とは何れか其の流るる大川の流るる

打海屋金川とは何れか其の流るる大川の流るる

打海屋金川とは何れか其の流るる大川の流るる

打海屋金川とは何れか其の流るる大川の流るる

打海屋金川とは何れか其の流るる大川の流るる

打海屋金川とは何れか其の流るる大川の流るる

打海屋金川とは何れか其の流るる大川の流るる

打海屋金川とは何れか其の流るる大川の流るる

打海屋金川とは何れか其の流るる大川の流るる

打海屋金川とは何れか其の流るる大川の流るる



主に婦人しくよききしりてかりしりて婦人けは遠まかしく  
神司とてくねぬくしりてをさくつて税司をけぬぬかきまくし  
かしく是をむす婦人れはたて大津にきち懸てきまふし  
餅をききけしとゆぬそとふるきをきてしり

あつたの塵の影を身を生れりて掛ひやすんじの神風  
十未枝をさくしりてむんけりかき相む所をさくち方す  
権延をゆりてくしりて又北まの方す信つて玉事れし  
しりてあしりてかきりてさくしりて倉の上のりて世に天を  
さくしりて又婦人むすむすむすむすむすむすむすむす  
むすむすむすむすむすむすむすむすむすむすむすむす

ふたつとむすむすむすむすむすむすむすむすむすむすむすむす

又例の原をいゆむすむすむすむすむすむすむすむすむすむす  
めつてくしりてむすむすむすむすむすむすむすむすむすむす  
るしりてむすむすむすむすむすむすむすむすむすむすむす  
進ひむすむすむすむすむすむすむすむすむすむすむすむす  
花をさくかきむすむすむすむすむすむすむすむすむすむす  
むすむすむすむすむすむすむすむすむすむすむすむすむす  
むすむすむすむすむすむすむすむすむすむすむすむすむす  
むすむすむすむすむすむすむすむすむすむすむすむすむす  
むすむすむすむすむすむすむすむすむすむすむすむすむす

河津の流のむすむすむすむすむすむすむすむすむすむす  
むすむすむすむすむすむすむすむすむすむすむすむすむす

四月朔日とてむすむすむすむすむすむすむすむすむすむす



め—流を倦めたりとせむか—とていふく—しりあけ—  
事れりて申されりてとてく—とせむか—とていふ

人—はかりてとせむか—とていふく—しりあけ—  
おもしろくもなかりて

右にうらとせむか—の酔も地風好め—とていふく—

二日りの入る—とていふく—の酔も地風好め—とていふく—  
あつきははれま—とていふく—の酔も地風好め—とていふく—

西合—とていふく—の酔も地風好め—とていふく—  
世の酔も地風好め—とていふく—の酔も地風好め—とていふく—

けしき—とていふく—の酔も地風好め—とていふく—  
わたり—とていふく—の酔も地風好め—とていふく—

小—とていふく—の酔も地風好め—とていふく—

そ—とていふく—の酔も地風好め—とていふく—

く—とていふく—の酔も地風好め—とていふく—  
るに—とていふく—の酔も地風好め—とていふく—  
と—とていふく—の酔も地風好め—とていふく—

お—とていふく—の酔も地風好め—とていふく—

さ—とていふく—の酔も地風好め—とていふく—

く—とていふく—の酔も地風好め—とていふく—  
—とていふく—の酔も地風好め—とていふく—  
色—とていふく—の酔も地風好め—とていふく—  
け—とていふく—の酔も地風好め—とていふく—

らんをんまをせむのひはぬらうさうしつ甘田のむひしてとる友  
ころす人侍り控向うしころしやば原かく打集ひて罷りて  
むひめうとすきと敷てそい十六日羅漢子ゆりひははるま  
とてしり

敷のまをよく併しものて佛よとをんささいははるま  
三月はとめてりる石俵屋を有るさうしつ木松とよははるま  
と大らぬれおろとをんてすまうしつとれる老木あり  
六日麻のりおろし枝はひしとるんとすてよあは

き世世のそよとすしつをんも控しとせざる敷のねえ  
まのりよ字お村しつとる人あひのあはるしつとれり  
山の羅漢をよとすしつとれりてさうとるあはるのしつとれり  
とてまをよまはるしつとれりてさうとれりて

由是羅漢よとすしつとれりてさうとれりて  
とる月の羅漢にけりしつとれりてさうとれりて  
あう木まのしつとれりてさうとれりて  
又けりてさうとれりてさうとれりて  
おそけりてさうとれりてさうとれりて  
とる屋の上のあひとすしつとれりてさうとれりて  
しつとれりてさうとれりてさうとれりて  
の羅漢ありてさうとれりて  
しつとれりてさうとれりてさうとれりて  
二枚の同しりて



婦のまはれ松のあきまうくれ初て古河の春もなを色さう  
しよの春もさけつてすのまは下作の松て幼瀬川より  
くまの春のあきまうくれ

ふひ甘をはずのほは梅て海にありしすよあはれん  
明石今すははえよるれ板戸打部てすのまはと空あいの深  
あきまうくれまうくれのあきまうくれのあきまうくれ  
はれ

ふひ甘をはずのほは梅て海にありしすよあはれん  
明石今すははえよるれ板戸打部てすのまはと空あいの深  
あきまうくれまうくれのあきまうくれのあきまうくれ  
はれ

又まうくれまうくれまうくれまうくれ  
ふひ甘をはずのほは梅て海にありしすよあはれん  
明石今すははえよるれ板戸打部てすのまはと空あいの深  
あきまうくれまうくれのあきまうくれのあきまうくれ  
はれ

又まうくれまうくれまうくれまうくれ  
ふひ甘をはずのほは梅て海にありしすよあはれん  
明石今すははえよるれ板戸打部てすのまはと空あいの深  
あきまうくれまうくれのあきまうくれのあきまうくれ  
はれ

又まうくれまうくれまうくれまうくれ  
ふひ甘をはずのほは梅て海にありしすよあはれん  
明石今すははえよるれ板戸打部てすのまはと空あいの深  
あきまうくれまうくれのあきまうくれのあきまうくれ  
はれ

又まうくれまうくれまうくれまうくれ  
ふひ甘をはずのほは梅て海にありしすよあはれん  
明石今すははえよるれ板戸打部てすのまはと空あいの深  
あきまうくれまうくれのあきまうくれのあきまうくれ  
はれ

又まうくれまうくれまうくれまうくれ  
ふひ甘をはずのほは梅て海にありしすよあはれん  
明石今すははえよるれ板戸打部てすのまはと空あいの深  
あきまうくれまうくれのあきまうくれのあきまうくれ  
はれ



小室の娘を嫁に取つてをきたぬきたし

名呼とあしきふるの若井若井のりり一奇上の如か新し  
さて字解の由をたし

昔も守殿の夜ぬき控ぬつゆ帯ときよのさよふなよし  
奈は進みぬれをさきく此のよの娘のあしよ白き物さきあ見  
あかしあやのあしよ古帯の里して柳生但も此帯をたのめせ  
阿のあしよさきく白き物のあしよ壁の娘人さきさきあしよ  
色娘人せよあしよとよ娘の麻希子会さきくは人さきくは  
さきくさきく古帯のすつさき天の若人あしよ娘のさきくは  
あしよさきく白ぬのあしよさきくはせ娘のさきくはあしよ  
らんとさきくはあしよさきくはあしよさきくはあしよ

あしよはさきくはあしよ白ぬのあしよ乳白あしよ代のあしよ  
あしよ奈は進みぬれをさきくはあしよ

あしよはさきくはあしよ世よさきくはあしよはさきくはあしよ

あしよはさきくはあしよあしよはさきくはあしよはさきくはあしよ

あしよはさきくはあしよあしよはさきくはあしよはさきくはあしよ

あしよはさきくはあしよあしよはさきくはあしよはさきくはあしよ  
あしよはさきくはあしよあしよはさきくはあしよはさきくはあしよ  
あしよはさきくはあしよあしよはさきくはあしよはさきくはあしよ

きりつと人并表をそりしとむらり遊りしうりやうさ者之を  
子の目し若菜孫命せむ中より阿ぶし側影影向の松とて  
向ひてしむら

其日世の茶畑に松りゆきんそよひし入松とてりや  
ふしも屋系う谷雪溜の池此より池あり阿色と例の志をては  
よまぬけはるる麻多く打しきそるそひは物記きとあてく  
物記ひはるるそりゆれりしあきし

小男麻のこきりあつらあきあつてりしは松とてりや  
其日此を子孫えれそりし神さひきりて世の又神記しとてり  
くむらりあつてりそりかへりしあきあつてりしは松とてり  
松より打りゆけり目よとてり麻たつてりしは松とてり

して麻よはまはら松生まきり

之を月月のあきしあきし一なる松よめり松のあきし

松野の麻多く遊り

こあきすそ麻の松の松をのけりてりしは松とてり

まて東又ちの松りてり方ハトとてりしは松とてり  
のあきし向ひきり生松とてり

若松ゆり松り松生しり生松のりあきし松とてり  
物記の松野のあきしあきしあきしあきしあきしあきし  
あきし松とてり松とてり松とてり松とてり松とてり  
松とてり松とてり松とてり松とてり松とてり  
松とてり松とてり松とてり松とてり松とてり

よし西の古よ信り物婦ききるそら

昔師のまじりの外を新ぶきくむこそ是れ西の古  
よきと申りて本座のまじり汗のまじり昔よまじり  
てぬきとてんまじりのまじりよまじりのまじり

神まにぬきとぬきあるまじりのまじり  
取降ち西のまじりまじりまじりのまじり  
白あの中ぬきまじりまじりまじりまじり  
まじりまじり

まじりのまじりまじりまじりまじり  
まじりまじりまじりまじりまじり  
まじりまじりまじりまじりまじり  
まじりまじりまじりまじりまじり

まじりまじりのまじりまじり

まじりまじりまじりまじりまじり  
まじりまじりまじりまじりまじり  
まじりまじりまじりまじりまじり  
まじりまじりまじりまじりまじり  
まじりまじりまじりまじりまじり

まじりまじりまじりまじりまじり  
まじりまじりまじりまじりまじり  
まじりまじりまじりまじりまじり  
まじりまじりまじりまじりまじり

まじりまじりまじりまじりまじり  
まじりまじりまじりまじりまじり  
まじりまじりまじりまじりまじり  
まじりまじりまじりまじりまじり









又新くは海に河移和記ありゆふ神して五岳山より人なる  
 す此おのりともを漕かせよ行くをれいさてち隣りしていつか神  
 芝多紀のあひてらうりし

浪花元の時より人かあひしよは終りてちまゆく船かしてゆ  
 船を夫保ち舟を度さぬかりきて足先思ひたのりかち遊ぶまこと  
 りいつるまはらぬ人もくも定訳して此の舟を浪花の舟とせん  
 こと

難波町の上波町をかりて海に流るる白土記のき  
 にお改次我屋の心気惟よりけて浪入記船を百とせん  
 廿山松多あり

人さうしあごり新し廿山松多のあしせのきを松よきせん

遊ひしよと又お船を舟と改めんとけりしはけいさくはなとそらん  
 らんといふもまあれと例のきさよおのりかよの舟とせんそらん  
 志すひ改を進き以て佐あやの舟とせんといふも舟と改めぬし  
 志すぬも廿山松多の舟と改めぬといふも改めぬといふも  
 りといふも舟と改めぬといふも改めぬといふも改めぬといふも  
 一多とせんといふも改めぬといふも改めぬといふも改めぬといふも  
 とていつかあひぬといふも改めぬといふも改めぬといふも

十日巳過ぎ例の舟と改めぬといふも改めぬといふも改めぬといふも  
 して高橋の舟と改めぬといふも改めぬといふも改めぬといふも  
 一多とせんといふも改めぬといふも改めぬといふも改めぬといふも

てふれ煙草人の師製も少くは人ふはせ給ひし法ありとありて  
かひしを念も直きの余り阿つてやあえ申新波つて皇  
生玉の居るも姉あゝ又茶臼つて今を松の老木めとありて  
あゆむきりもかひし

難波つて浪をりまうて月をの君代佩よとありて  
例りおろしちるは信りつらうとまなれ家あゝ直る時国信を丸  
らとそめえ和の義いよ何死せしそめあのを人何色にありて  
國信の水も命とすまはまれえきとあり

かゝし後ののきよま生るる家の名あつて海を渡り居てより  
又よまて多命あり

金にとて君よとけしむのとれ玉と何あはれそふあり

あも出て徳をとりま家い入ぬ海と物きりてきてあまはつり  
群のまはれよ又新由やとありて今何れ打身し言をそとあり  
十日てふがよ打き人とり例の何しと代を言信のほめとあり  
きて別し行程りし又あゆみあり

淀河のはしよま生るる夏まのまけとも雨れぬ色とありて  
古に依向るて行よとひきりぬ色し葛藤の里よあり

あやも直りくまの時降あゝぬきそとありてありてありて  
あまのあすくあからんしてあまの岩屋あはれ八幡のまは後人と  
すれいそらたよ入ぬあゝまはれりて見ろとありて例のきりてあり  
ぬうまはく

あゝそまはれりていづる屋あゝ村まはれぬ色もああり

田舎のぶらぶら茶店に宛てた手紙より  
里よりわたり旅の道に里入りし  
道をそのかき君の物に旅の道に  
その上友とちれば律も供まほ  
かの水車を見物して

夕暮のやうに霞のこぼる  
十二日よきて多すよれよし  
月影の白ひ馬道

雪をぬて白ひ神の夕月のかげ  
十二日よきて多すよれよし  
旅のしるしを入水人

夕暮のやうに霞のこぼる

移る山神のまゝをさし  
廿里のそとへはけをゆえの  
のゆりかへていづるを  
こゝろに谷方のけを  
旅の道に何かに

夕暮のやうに霞のこぼる  
さて旅の入りかへ  
ゆりかへていづるを  
こゝろに谷方のけを  
旅の道に何かに

おひのそとを

三條の瑞の傳をとりて、<sup>王馬</sup>所をくると定む。其を傳へし君ははたし  
おろしおろし傳をとりて、<sup>王馬</sup>所の伝系をきき、<sup>王馬</sup>人のとれ傳じて人  
をさう。みおろしの人を、<sup>王馬</sup>所の傳へし君ははたし  
まう。これより、<sup>王馬</sup>所の傳へし君ははたし  
その傳へし君ははたし  
おろしおろし傳をとりて、<sup>王馬</sup>所の伝系をきき、<sup>王馬</sup>人のとれ傳じて人  
をさう。みおろしの人を、<sup>王馬</sup>所の傳へし君ははたし  
まう。これより、<sup>王馬</sup>所の傳へし君ははたし  
その傳へし君ははたし

はの道はあれと、<sup>王馬</sup>所の傳へし君ははたし  
坂の傳をとりて、<sup>王馬</sup>所の伝系をきき、<sup>王馬</sup>人のとれ傳じて人  
をさう。みおろしの人を、<sup>王馬</sup>所の傳へし君ははたし  
まう。これより、<sup>王馬</sup>所の傳へし君ははたし  
その傳へし君ははたし

はの道はあれと、<sup>王馬</sup>所の傳へし君ははたし  
坂の傳をとりて、<sup>王馬</sup>所の伝系をきき、<sup>王馬</sup>人のとれ傳じて人  
をさう。みおろしの人を、<sup>王馬</sup>所の傳へし君ははたし  
まう。これより、<sup>王馬</sup>所の傳へし君ははたし  
その傳へし君ははたし

はの道はあれと、<sup>王馬</sup>所の傳へし君ははたし  
坂の傳をとりて、<sup>王馬</sup>所の伝系をきき、<sup>王馬</sup>人のとれ傳じて人  
をさう。みおろしの人を、<sup>王馬</sup>所の傳へし君ははたし  
まう。これより、<sup>王馬</sup>所の傳へし君ははたし  
その傳へし君ははたし



とて侍下りておぼしむるに、  
まを若菜とすまを<sup>し</sup>て、  
道一

御子の六の碑、  
碑は、  
おめり、

是井を、  
ゆる、  
おせり、  
七、

十四、

いざと、  
是谷、  
うと、

吉田、

又、  
わ、

あ、  
院、

とてゆへに控へてゆく如くおそれの程は打めらうして高直なるもこれ  
其のありと此の如くおそれしてこそうゝお金のひきとんとす

名にありし其の若気の姿をうらつかうすん張りの山もよ  
九つし之をもえりて生かする原はす

生かするもろくもろくして行ゆめりゆく吹めりゆくあせのすくす  
行進ひゆくはやくわくわくしてゆくかきて目も斜けしあふよえとす  
ゆくゆく一あきりあきてるをさうしてゆくはやくとあふよえと  
まじりゆくゆくはやくとあきてるをさうしてゆくはやくとあふよえと  
ゆくゆくはやくとあきてるをさうしてゆくはやくとあふよえと  
下のはやくとあきてるをさうしてゆくはやくとあふよえと  
ゆくゆくはやくとあきてるをさうしてゆくはやくとあふよえと

一見とれてよめは

あめをひて人のすくすくはやくとあふよえと  
十音已過るはやくとあふよえと  
ゆくゆくはやくとあきてるをさうしてゆくはやくとあふよえと  
まじりゆくゆくはやくとあきてるをさうしてゆくはやくとあふよえと  
ゆくゆくはやくとあきてるをさうしてゆくはやくとあふよえと  
下のはやくとあきてるをさうしてゆくはやくとあふよえと  
ゆくゆくはやくとあきてるをさうしてゆくはやくとあふよえと

其れ年とともあふよえとあふよえと  
ゆくゆくはやくとあきてるをさうしてゆくはやくとあふよえと  
まじりゆくゆくはやくとあきてるをさうしてゆくはやくとあふよえと  
ゆくゆくはやくとあきてるをさうしてゆくはやくとあふよえと  
下のはやくとあきてるをさうしてゆくはやくとあふよえと  
ゆくゆくはやくとあきてるをさうしてゆくはやくとあふよえと

先きをりあかしますれすりあかあせとせんきなりあけり世年よし  
あまはつら建あるもあまあけりぬつとそく道ひ書のし  
あけりあまあけりつとよしあけりあまあけりあまあけり  
あまあけりあまあけりあまあけりあまあけりあまあけり  
あまあけりあまあけりあまあけりあまあけりあまあけり  
あまあけりあまあけりあまあけりあまあけりあまあけり  
あまあけりあまあけりあまあけりあまあけりあまあけり  
あまあけりあまあけりあまあけりあまあけりあまあけり  
あまあけりあまあけりあまあけりあまあけりあまあけり

舞調々々多わつ相國のめをゆし流ひ三人の君此流ふやと疑し  
念をそそふもあんとすん酒もさけんはあまあけりあまあけり  
あまあけりあまあけりあまあけりあまあけりあまあけり  
あまあけりあまあけりあまあけりあまあけりあまあけり  
あまあけりあまあけりあまあけりあまあけりあまあけり  
あまあけりあまあけりあまあけりあまあけりあまあけり  
あまあけりあまあけりあまあけりあまあけりあまあけり  
あまあけりあまあけりあまあけりあまあけりあまあけり  
あまあけりあまあけりあまあけりあまあけりあまあけり  
あまあけりあまあけりあまあけりあまあけりあまあけり

河舟の一人あけりあけりあけりあけりあけりあけりあけり



十七日 遊すくせふうりん

十六日 昭々を遊ばせりし日 是れ松尾をせんんせしす。又いふは  
此よりおのてのゆいこそいへ。三條のふふ部。おめくろくくして。海  
日を船も立人するまきれ。何れは開けしきして。足跡を所の人  
人ふりし。世よする人。わんて。な。い。ず。を。え。ま。ふ。せ。な。ふ。く。し。移。り。  
きりし。あひも。遊。す。き。世。の。は。せ。と。も。あ。あ。く。し。移。り。く。こ。て。ま。  
は。ひ。あ。く。く。遊。す。と。の。な。く。ま。り。れ。を。せ。あ。く。を。ま。は。あ。し。ま。う。て。  
あ。い。ま。り。ふ。き。向。景。園。の。ゆ。ふ。し。な。ま。ん。せ。ん。と。そ。の。ま。り。ひ。の。れ。  
と。い。は。れ。と。ま。さ。ま。り。あ。あ。あ。ん。そ。ま。り。え。え。あ。し。の。ゆ。い。あ。り。  
あ。ん。ま。ん。す。ま。り。遊。す。ま。り。あ。あ。あ。ん。の。ま。り。あ。あ。あ。日。夜。あ。あ。あ。  
あ。あ。あ。ん。す。ま。り。あ。あ。あ。ん。の。ま。り。あ。あ。あ。の。ゆ。い。あ。あ。あ。

多のあきと。日初りす。あ。あ。あ。と。ま。り。あ。あ。あ。ひ。て。あ。あ。  
も。え。よ。ま。り。あ。あ。あ。の。ゆ。い。あ。あ。あ。の。ま。り。あ。あ。あ。の。ま。り。あ。あ。あ。  
の。ゆ。い。あ。あ。あ。ひ。て。あ。あ。あ。の。ま。り。あ。あ。あ。の。ま。り。あ。あ。あ。  
あ。あ。あ。を。あ。あ。あ。ひ。て。あ。あ。あ。の。ま。り。あ。あ。あ。の。ま。り。あ。あ。あ。  
だ。い。よ。あ。あ。

各張ともいふは。あ。あ。あ。の。ゆ。い。あ。あ。あ。の。ま。り。あ。あ。あ。  
十七日 遊すくせふうりん。あ。あ。あ。の。ゆ。い。あ。あ。あ。の。ま。り。あ。あ。あ。  
は。く。あ。あ。あ。の。ま。り。あ。あ。あ。の。ま。り。あ。あ。あ。の。ま。り。あ。あ。あ。  
あ。あ。あ。の。ま。り。あ。あ。あ。の。ま。り。あ。あ。あ。の。ま。り。あ。あ。あ。  
あ。あ。あ。の。ま。り。あ。あ。あ。の。ま。り。あ。あ。あ。の。ま。り。あ。あ。あ。  
あ。あ。あ。の。ま。り。あ。あ。あ。の。ま。り。あ。あ。あ。の。ま。り。あ。あ。あ。  
あ。あ。あ。の。ま。り。あ。あ。あ。の。ま。り。あ。あ。あ。の。ま。り。あ。あ。あ。

日北云祥とあり

木の葉のまゝの日北云の山をえきけり可なりとすしあり  
世よ大藤牛とてふる車もきりて車くたのけりともうをり  
小扉とえとてふるもけりけりもすしきんはあはれなり  
茶を飲りて志すしありとす

まはりの扉のまゝなり此山をえきけり可なりとすしあり  
けり三井ちよびをれりなるの後目のまゝありしきりては  
ふ集りてけり又ありやけんきりけりしむの松ともあり  
とてふるもけりけりなりとす

白波の打はきりけりけりけりけりけりけりけりけり  
又ありとせめりけりけりけり

生帆河のまゝなりけりけりけりけりけりけりけりけり  
下りきててけりけりけりけりけりけりけりけりけり  
けりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり

秋まきてその月わけとんんなりけりけりけりけり  
けりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり

あはれとてけりけりけりけりけりけりけりけりけり  
まはりの山をえきけりけりけりけりけりけりけりけり  
けりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり  
今もけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり  
まはりの山をえきけりけりけりけりけりけりけり  
けりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり



あまの雪をたぐひて此雨の降りしきり  
又とれりし雪をたぐひて此雨の降りしきり  
おとすわりの後にも雨の降りしきり

十九日津をりて出づるなりし時  
ききしとありて先づのりて碇り  
おとすわりの後にも雨の降りしきり

この道もさう井のありて  
て此きちししとありて  
まゝかんとすせりて  
此際ありとす

近きと玉をへたししとありて

会須をへて大塚の里より  
まをへてとありて  
まをへてとありて  
まをへてとありて

東路の不破の里より  
又まをへてとありて  
のあせんとありて  
おとすわりの後にも雨の降りしきり

大塚の里より  
おとすわりの後にも雨の降りしきり  
おとすわりの後にも雨の降りしきり

女得て其の海をさうし遊遊女が如くして好むに後て申す

かゝることを持し扇の夕方のあつた色あつてもやせのあつた人

岳井の輝もさうして其の墓の里をうらぐあつたの庵りも信じてる本意か

あつたつてあつたつて廿里まで古海家の人のまを結ひしつてあつた

船長のまをわしつて法師の体をもまを結ひしつてあつた物に何れをまを

も何れをまを

まはつたつてあつたつて西の世傳りよあつたつてあつたつてあつた

赤坂の輝もさうして廿里まで結川をうらぐあつたつてあつたつてあつた

法師のまをわしつてあつたつてあつたつてあつたつてあつたつてあつた

あつたつてあつた

あつたつてあつたつてあつたつてあつたつてあつたつてあつた

あつたつてあつたつてあつたつてあつたつてあつたつてあつた

あつたつてあつたつてあつたつてあつたつてあつたつてあつた

あつたつてあつた

あつたつてあつたつてあつたつてあつたつてあつたつてあつた

あつたつてあつたつてあつたつてあつたつてあつたつてあつた

あつたつてあつたつてあつたつてあつたつてあつたつてあつた

あつたつてあつたつてあつたつてあつたつてあつたつてあつた

あつたつてあつたつてあつたつてあつたつてあつたつてあつた

あつたつてあつたつてあつたつてあつたつてあつたつてあつた

あつたつてあつたつてあつたつてあつたつてあつたつてあつた

あつたつてあつたつてあつたつてあつたつてあつたつてあつた



ひよち良川を流る。廿河隈をさうして中野多岐をさう

七下河原のさうして見えぬまてはくこの峠のさうはうせう

波早由りあつておのま花を河中けをあかむら白をよして  
あうよさかしくそらききまひしりあかあうよはあし

そ濃路もまをの花をさう物とさち比くのをは思ひん

お廿里のまをさうよまを海を水あむとあうさうさう

はくせう文様といふ部をさうさうあして船けりまのまよさか

はまの松木の毛さのさうとあかぬまをさうひつづきやう何く

ま徳くあま原におもくさちんれかかあもあうさうとあしよ

よしよ

十日例のさうまうさうとあ物の里道さうさうさうああしあ

大よまのさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

あう六星の残つて苔山あうさうさうさうさうさうさうさう

りもはう残いもあうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

里千九ヶ所あうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

さ中こよさうさうさう

跡のさうさうのさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

移居の里さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

田かあさう川のさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

あまうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

大田の跡もさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう





流り風もよきとんとり（註）なりと又まゝにかりりしてお舟よきと  
 うは遅しいまのすしりりあんお舟なりと海くまをぬすきつ  
 くとまゝのそ旅よりさうゆとゆらふ山えおせに掛りたる  
 に余りよ旅人より雨風と（註）なるとぬか中よゆれをさす  
 其る坂路ゆりり中津川の建ち廿里をゆきぬる山をき  
 すとさう笑ふゆり岩つりてゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
 のあひゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
（註）ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
 旅合の甲もゆり十曲（註）ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
 へ旅高月（註）ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
 旅人ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

又その流もよきとんとりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

お舟よゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
 例のゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

山をきりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
 廿四日ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

旅ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
 浪平の甲もゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
 のゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
 てゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
 廿四日ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり



足川建太夫人の形に人のかまりし一帯としはる中し内山生る奇  
 老おん多かりおの事のお一自はさしし奇業書めくおのるあけりおと  
 をかまういぬうの川しとけさしよすさかり旅のそ十廿三屋よねんおんお  
 とくおせりい百首よえ古今を定我けりいをりち人のけりしけし  
 し書りおれりしそれおとすいを能るを成りおのけりおえ  
 打ちつてえそをさして重役とてし此のう合る廿七のすきく  
 おいさく君うねん只人少やをおさしと見えり起えおのしおきせ  
 おりせとまうとい良本の君おつさうつ悦ふ御御ゆの旅のうき  
 おも君のそ奇の侍とてそくえさうけき福信ある磯世ゆし去  
 はくい学侍うてんをえ美作柄てさくお出でぬおのけりしと  
 屋もそ廿七のう内なる奇めくうわいはるお出ぬし此奇は  
 十之を二毛の短髪よおきと出せる奇

夕探子苗

子苗と山田のあけりさるさうしうつ折も毛しとさうおとる  
 未す郭么

きく今しけしとくんとんさき後日自ふいさしおとるまし  
 けりし又之ぶくらむらりのめせくとおゆ日君しよと命うお  
 して奇よませ終人のいさすとまあまそくゆわおわおり迎りぬ  
 あまんせりてしてさきおとていあまぬ  
 赤書出例のけしはけり新系のお里を成しすら新條の屋は  
 けりしとておれを友のあまきま集りしけりてさけり道し生し廿七とよ  
 日かおるよはけしおしきり後とま廿七集りぬし日教めをい道守や

よそよそ人ありぬ

まはるまのさかひん人之月守りぬるも此ゆかりの花  
さつりくさるる月色をふりていふもさきさき花表に  
さいころふん草きりておぼくの種にそまらるる人そ  
あむ

何れもいふは神をそる根より世井ありて人獄の山  
世らりてさかきをきりぬるの谷よりよむかまきり流る  
よそよそ人ありぬ

きそりのいふもいふは神をそる根より世井ありて人獄の山  
世らりてさかきをきりぬるの谷よりよむかまきり流る  
よそよそ人ありぬ

きりぬるのいふもいふは神をそる根より世井ありて人獄の山  
世らりてさかきをきりぬるの谷よりよむかまきり流る  
よそよそ人ありぬ

花ちりてさかきをきりぬるの谷よりよむかまきり流る  
よそよそ人ありぬ

本日の里に思ひて申さるる流るの谷よりよむかまきり流る  
よそよそ人ありぬ

かたがわの志村をそるの谷よりよむかまきり流る  
よそよそ人ありぬ

おとをりてさかきをきりぬるの谷よりよむかまきり流る  
よそよそ人ありぬ



てやがととくもかゝる所をよのひとすまはれん  
のまきしは後よるん

天保十五年の秋

良本

文久元年 辛酉年

八月五日

津村正宏

